

在禅洞だより

■ 岐阜環境医学研究所・座禅洞診療所

● 呼吸器疾患・禁煙治療・漢方相談

診察日：月曜・木曜・金曜

受付時間：9:00~12:00

〒502-0017 岐阜市長良雄雄878-16

IP Tel: 058-295-9545

FAX: 058-296-3903

E-mail: zazendoh@ccn.aitai.ne.jp

http://zazendoh.town-web.net/

第122号 2014.5.1.

毎月1回発行 座禅洞診療所 松井英介



「医師から見た広島、そして福島」

松井英介

4月13日から17日まで、京都と広島で開かれた国際学会（第18回世界気管支会議）に行ってきました。世界各国と日本各地から3,000人以上の呼吸器病の専門医が集まりました。

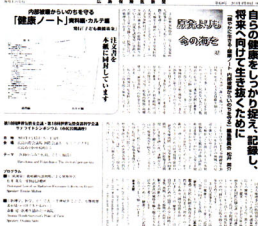
広島では一般市民を対象にした市民公開講座が開かれました。テーマは「医師からみた広島、そして福島」。私は「“低線量”放射線による内部被ばく」と題して話をしました。海外から参加した医師たちも、一般市民に混じって熱心に耳を傾けていました。終了後彼らが口にした、好意的なコメントが忘れられません。

今回の国際学会の会長、宮澤輝臣医師は広島に生まれ育った被爆二世です。

「内部被ばく」は、ご存知のように原爆被爆者集団訴訟の最大の争点です。原爆投下後に、家族を探して、あるいは救護のために、広島や長崎の街に入った人たちの急性症状や後から出てきた晩発障害（白血病やがん、先天障害、白内障などの病気）は、放射性微粒子による内部被ばくの影響が大きいということがわかってきています。原告である被爆者は、自分たちの病気が内部被ばくの健康影響だと訴え、各地の裁判所も原告の訴えを認めました。

しかし、被告である日本政府は今なお「内部被ばく」の健康影響を認めていません。国連安保理の直下にあるといわれる国連機関、国際原子力機関（IAEA）も国連科学委員会（UNSCEAR）も基本的には同じスタンスだと考えられます。「福島での被ばくによるがんの増加は予想されない」と述べた4月2日付UNSCEAR報告は、彼らの考えをよく表しています。原爆と原発を推進する核大国と国連機関がマスメディアや教育界さらに学界に大きな影響を及ぼしている現状では、「内部被ばく」から次世代＝子どものいのちを守ろう！という声は、異端とされかねません。このような大状況の下で、広島での市民公開講座のテーマに、あえて「内部被ばく」を取り上げた宮澤会長に、私は深甚の敬意を表したいのです。

広島保険医新聞2014-04-10（第458号、P.6）は、この公開講座を記事にし、同じページで、「健康ノート」について大きく報道しました。新聞に「健康ノート」のチラシも折り込んでくださり、広島からの注文が相次いでいます。



朝鮮人被爆者の碑
広島平和公園